

集団の鏡映的所属認知が及ぼす社会的魅力への影響

風見芽衣

私たちが人に抱く好き・嫌いといった感情のことを社会心理学では対人魅力と言う。魅力に影響を与える要因は複数あるが、本研究では集団に注目した。集団に関わる魅力は社会的魅力と言ひ、相手と自分が共通のカテゴリーに含まれるという認識に基づいた集団の魅力を意味する。先行研究の議論をまとめると、社会的魅力の中心には社会的アイデンティティが存在することが分かっている。社会的アイデンティティとは、自分は何者であるかについての意味であり、社会集団に所属しているという集団所属認知が基本要素である。特に「周囲の人たちは私を〇〇の一員と見なしている」という鏡映的所属認知が社会的アイデンティティの集団所属認知を構成するのに重要だと言われている。社会的アイデンティティが社会的魅力に影響を与えていることは先行研究より判明しているが、鏡映的所属認知の役割に関しては未だ明らかになっていない。そのため、本研究では、鏡映的所属認知が社会的魅力を高めるのかどうか明らかにすることを試みた。大東文化大学の各運動部に所属する学生を対象に質問紙調査を行った結果、鏡映的所属認知が高ければ高いほど社会的魅力も同様に高まるという傾向が見られた。しかし、鏡映的所属認知だけでなく、同じく社会的アイデンティティの集団所属認知であり、「私は〇〇の一員である」という自覚的所属認知も社会的魅力を高める傾向が見られた。魅力の先行研究では、容姿といった個人的要因を重視するという結果が非常に多かったが、本研究の結果より、社会的アイデンティティといった社会的要因も魅力を構成する重要な要因であることが証明された。